

シリーズ 土地改良のあしあと 上野土地改良区(伊賀市)



伊賀盆地の主峰高旗山を望む田園風景ですが、市街地化が進んでいます。

地域の概要

上野土地改良区は平成23年10月、旧小田、服部川沿岸、中瀬川南の3改良区が合併して誕生しました。

当改良区は、伊賀盆地に源を発し京都府を経て大阪湾に注ぐ、淀川水系木津川の支流、服部川に用水源を求めており、旧上野市(伊賀市)の中心市街地の上縁部を囲むように、東から西にかけて広がる地域をエリアとしているところから、改良区の名称に上野を冠しています。

3改良区が合併

この地域には従来から服部川を共通の水源として3つの改良区が設置されていました。

旧小田土地改良区は組合員144名、61haと比較的小規模な改良区でしたが、昭和26年設立以来、幾度となく水害に見まわれた苦難の歴史を乗り越えてきました。

旧服部川沿岸土地改良区は昭和30年設立、組合員数

680名、383ha。上野頭首工、真泥ダム等の施設を有し地域の農業用水の安定供給に大きな役割を担ってきました。

旧中瀬川南改良区は組合員136名、面積82ha 服部川左岸の中瀬地区のほ場整備事業のため平成13年に設立され、23年に82haの事業を完了しています。

これら3つの改良区が地域農業の一層の発展と組織運営の効率化をめざして、合併に至ったものです。

現状と課題

合併により組合員数680名、受益面積は395ha(旧小田、中瀬川南の受益面積の大部分は旧服部川改良区との重複)を

要する規模となりました。

受益地では稲作ですが、この地域では市街地に近いところから昔から野菜栽培がさかんであり、また梨などの果実も多く出荷されています。

しかし近年、大規模店の進出、市街地化の進行による農地の減少といった全国的な傾向に加えて、就業者の高齢化、後継者難の問題といった問題をかかえており、将来に不安を抱えています。

一方、当改良区の基幹施設である昭和46年完成の服部川上野頭首工と、農閑期に服部川からポンプで揚水し貯水する昭和51年完成の真泥ダムの両施設が、建設後約40年を経過し、老朽化が懸念され、それら施設の耐震化も含めた改良等の課題が山積しています。

今後それらの課題について組合員の叡智と、関係機関、団体との連携・協力により積極的に取り組み、地域の活性化と農業振興に努めていきたいと考えています。



満々と水を湛える真泥ダム



取水の要、上野頭首工